

小笠原諸島の世界遺産としての価値の証明に関する検討経緯

1. 世界自然遺産候補地に関する検討会（環境省・林野庁）

環境省と林野庁が、平成15年に学識経験者からなる「世界自然遺産候補地に関する検討会」を共同で設置し、世界自然遺産の新たな推薦候補地を学術的見地から検討。

「知床」、「小笠原諸島」、「琉球諸島」の3地域を我が国における新たな世界自然遺産の候補地として選定。

「小笠原諸島」の評価された点と課題は以下のとおり。

【評価された点】

- ・多くの固有種・希少種が生息・生育し、特異な島嶼生態系を形成。

【課題】

- ・外来種対策を早急に講じる必要がある。
- ・最も重要な地区の一部は、未だ十分な保護担保措置がとられていない。

2. 小笠原諸島の世界自然遺産登録推薦書（案）等検討会（東京都）

東京都が登録推薦を進めるための基礎資料作成業務の一環として検討会を設置し、世界遺産としての価値を検討

平成18年2月7日及び3月9日に開催し、世界遺産としての価値となりうる情報を収集。

委員

海野 進	静岡大学 教授
小野 幹雄	東京都立大学 名誉教授
加藤 英寿	首都大学東京 助手
苅部 治紀	神奈川県立生命の星・地球博物館 学芸員
川上 和人	森林総合研究所 多摩森林科学園
清水 善和	駒沢大学 教授
千葉 聡	東北大学大学院 助教授
長谷川 博	東邦大学 教授
堀越 和夫	NPO法人小笠原自然文化研究所 理事
吉田 正人	江戸川大学 助教授

肩書きは検討会開催当時

3. レスリー・F・モロイ氏による小笠原諸島現地視察（環境省）

小笠原諸島を世界自然遺産として価値を検討するため、世界自然遺産の評価に直接関わった経験のあるモロイ氏を小笠原諸島に招き、現地視察を踏まえた上で、推薦に向けた自然価値の整理及び保全の具体的手法等について総合的な助言を得た。

モロイ（Leslie F. Molloy）氏は、世界自然遺産の審査を担当する国際自然保護連合（IUCN）の自然遺産評価委員として特にアジア太平洋地域の遺産物件の審査を担当。1993年には屋久島及び白神山地の評価団として来日。

現地視察期間は平成18年6月14日～27日

モロイ氏の評価及び助言の概要は次のとおり

1) クライテリアの合致について

- (vii) 自然景観：太平洋にいくつもある他の火山島と比較して「特に優れた自然現象あるいは例外的な自然美」を呈してはいない。
- () 地形・地質：合致する可能性がある。当初の海底火山が、海洋上に出た島として発達しており、4800万年～4400万年前の地殻変動のプロセスをよく見せてくれている。マグネシウム含量の多い「ボニナイト」などについても興味深い。他遺産との比較が必要。
- () 生態系：合致していると考えられる。適応放散の有意義な進行中の生態学的プロセス、特に陸貝の進化の良い例である。
- () 生物多様性：多くの固有種や希少種が見られるが、科学的あるいは保全上の視点から顕著な普遍的価値があると主張するには検討が必要。

2) 完全性について

- ・ 価値を絞って、範囲はコンパクトにしたほうがよい。
- ・ 外来種対策についてはまだ「研究段階」であって、「実施段階」に進んでいない印象を受ける
- ・ IUCN が自信を持って登録推薦するためには、外来種対策の計画と成果、今後の成果の見込みが十分に示される必要がある
- ・ 世界遺産登録推薦をする場合は、外来種対策に関して中長期的な対策について明確な意思表示をすべきである